



今年、ペリー再来航により日本が開国し日米関係が始まってから170年。その間に起こったさまざまな出来事の中で最大の不幸は言うまでもなく約4年に及ぶ日米戦争でしたが、そもそもあの戦争がなぜ起こったのか、また、開戦前の米国内はどのような状況だったのかなどについては、いまだに未解明の部分が少ないありません。

そこで今回は、日頃日本ではあまり話題になることがない一人の大統領に焦点を当てていろいろ考えてみたいと思いま

す。そのことは、温故知新、今後の日米関係を考える上でも無駄ではないと思うからです。

フーヴァーとは どんな人？

米国の西海岸、サンフランシスコの南、シリコンバレーに近いパロアルト市にあるスタンフォード大学は、東海岸のハーバード大学と並ぶ名門校で、最近では日本からの留

一角にひときわ高くそびえるタワーの中に「フーヴァー研究所」があります。

米国の西海岸、サンフランシスコの南、シリコンバレーに近いパロアルト市にあるスタンフォード大学は、東海岸のハーバード大学と並ぶ名門校で、最近では日本からの留

同大学出身のハーバート・フーヴァー大統領（第31代）が就任前の1919年に創設したもので、正式名称は、「フーヴァー戦争・革命・平和研究所」。現在では世界有数の公共政策シンクタンクとして有名です。

（明治7）年にアイオワ州で、クエーカー信者の一家に誕生。幼くして両親を亡くし、経済的に苦ししい少年時代を送りましたが、努力して1891年にスタンフォード大学に第1期生として入学。同級生には上流階級の子弟が多い中で、野球チームやフットボールチームの運営、クリーニング屋や講義仲介業の経営などで注目を浴びたそうです。また、他の生徒に推

若き日のフーヴァーについては、さまざまな面

忘れられた米大統領

フーヴァーの業績の再評価

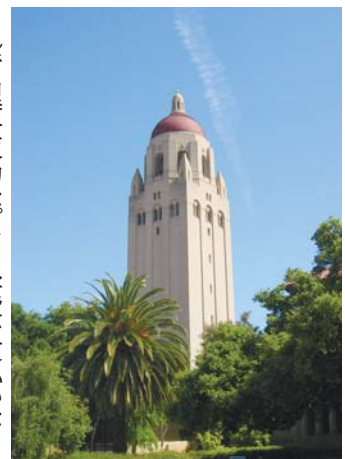
学生にも人気が高いようです。スペイン風のあか抜けた校舎が立ち並ぶ広々としたキャンパスの

白い逸話がありますが、その中の一つをまず紹介しておきましょう。フーヴァーは1874

される形で学生自治会の会計係に選出され、多額の自治会の負債を返済することに成功したとも伝えられます。

パデレフスキーとの心温まる逸話

またある時、学費を捻出するために、友人とともに学内で有名音楽家によるコンサートの開催を企画しました。目を付けたのは、ポーランド生



フーヴァー研究所（ジョード・カリム撮影）

まれて当時世界的なピアノリストとして有名だったパデレフスキー。彼のマネジャーを通じて打診したところ、ギャラとして2000ドルを支払うことで交渉成立。学生二人はパデレフスキーのピアノリサイタル成功のために不眠不休で奔走します。ところが必死に努力したのに、当日になってもチケットの売り上げが伸びず、1600ドルだけ。大幅な赤字に困った二人は、パデレフスキーに直接会って謝罪した上で、1600ドル全額とその差額の400ドル小切手を手渡そうとしました。

これに対して、パデレフスキーは「いや、これは受け取れません」と言っており、400ドル小切手を破り、1600ドルを返しなから「ここから、既に支払った経費を引いて、残りです。」

（2面に続く）



フーヴァー大統領（写真はウィキペディアから）

令和つれづれ草

39

金子熊夫

「感謝される必要はありません」

その後、パデレフスキは、周囲に推されて政界入りし、第一次世界大戦後に発足したポーランド第二共和国の第2代首相（外相兼務）に就任します。当時ポーランドはまだドイツ帝国やオーストリア・ハンガリー二重帝国の支配下にありましたが、国土は戦争で壊滅状態にされ、国内には食料もなく、150万人も

した二人の学生の一人です。あの時のご厚意のおかげで無事大学を卒業することができました」

当時フーヴァーは米国の食糧庁長官か商務長官だったと思われませんが、二人の間にこのような偶然の、心温まるエピソードがあったことを私はごく最近フーヴァーの経歴を調べて初めて知りま

した。なお、パデレフスキについては、確か小学生か中学生の時、学校の教科書で読んだ記憶がありますが、どんな内容だったかは覚えていません。

大統領就任直後に大恐慌

さて、話を本筋に戻して、フーヴァーはスタンフォード卒業後、オーストラリアの鉱山で鉱山技師として働いたり、中国（当時の清国）で鉱山の開発に従事。1900年の義

落、歴史的な経済大恐慌に見舞われます。周知のように、この大恐慌は米国のみならず全世界に甚大な影響をもたらしました。実業界の経験があるだけに、フーヴァーも大統領として懸命に対策を講じ、「フーヴァー・モラトリアム」などの緊急措置を講じましたが、焼け石に水。経済不況の悪化を止めることができ

「ニューディール」と称する大胆な新政策を打ち出し、数年がかりで大恐慌を収束させます。その功績により、前代未聞の4選を果たします（4期目の初めに病死。その後憲法で大統領任期は2期8年までに制限）。

日独伊による「枢軸国」グループと英仏蘭などを中心とする「連合国」グループの対立の中で、後者の側に立ち、真珠湾攻撃をきっかけに国内の厭戦ムードを抑え、対日宣戦布告と同時に、ヨーロッパ戦線に参入する

これは、第二次世界大戦の起ころしと見られること源や本質に関わることを

実は、フーヴァーは大統領退任後書いた回顧録や論文の中で、政敵ルーズベルトについて厳しい評価をしています。その一つは、日米戦争はルーズベルトが仕組んだもので、日本を計画的に挑発し、追い詰めて対米戦争を余儀なくさせた。日米はもともと隔意なく話し合っていたら戦争は避けられたらどうかとほつきり書いています。

さらにもう一つ重要なことは、ルーズベルトが共産主義者のスターリンと手を結び、ソ連を連合国側に引き入れたことです。フーヴァーによれば、スターリンはヒトラーと同じ「ろくろ」で、彼ら二人

忘れられた米大統領

後任ルーズベルトとの違い

その後帰国し連邦政府の職員となり、出世し、商務長官を歴任した後、共和党から大統領選に出馬。見事当選します（前ニューヨーク州知事）。彼については今さら詳しく説明するまでもなく、大統領就任直後に

代わってさっそうと登場したのが民主党のフランクリン・ルーズベルト（前ニューヨーク州知事）。彼については今さら詳しく説明するまでもなく、大統領就任直後に

さらに、ルーズベルトの外交政策で決定的に重要なのは、1930年代初めから表面化していた

この点に関しては、本欄第15回（2022年1月17日付）「日本は米英に嵌められた！ 日米開戦外交の裏側」で詳述しましたので、ここでは割愛します。

「日米戦争は避けられた」

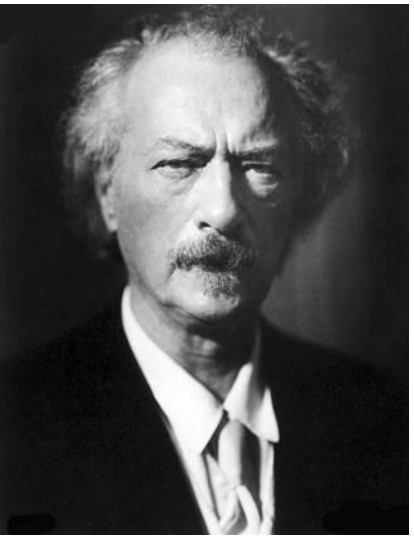
大統領に再選されれば、ルーズベルトの出番はなく、従って、日本をABC包囲網で囲み、経済制裁で痛めつけ、その結果ドイツに接近させ、米英と戦うこともなかっただろうということ。歴史にifは禁物ですが、戦後79年、先入観抜きで歴史を振り返り、そこから教訓を学ぶという意味で大変な視点だと思えます。



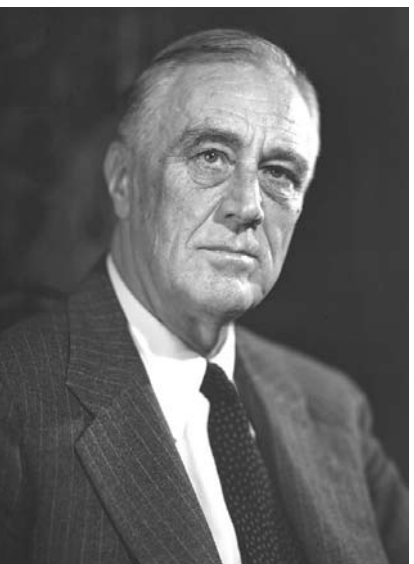
ヤルタ会談。左からチャーチル、ルーズベルト、スターリン

大統領に再選されれば、ルーズベルトの出番はなく、従って、日本をABC包囲網で囲み、経済制裁で痛めつけ、その結果ドイツに接近させ、米英と戦うこともなかっただろうということ。歴史にifは禁物ですが、戦後79年、先入観抜きで歴史を振り返り、そこから教訓を学ぶという意味で大変な視点だと思えます。

「いや、首相閣下が私に感謝される必要はありません。お忘れかもしれませんが、私はスタンフォード大学在学中にあなたにリサイタルをお願い



首相フーヴァー（写真は左からパデレフスキ、キペディアから）



フランクリン・ルーズベルト大統領

元外交官。ハーバード大学法科大学院卒。元国連環境計画（UNEP）アジア太平洋地域代表、日本国際問題研究所研究局長、元外務参事官。退官後東海大学教授（国際政治学）、現在はエネルギー戦略研究会会長のほか、外交評論家として活躍中。新城市出身、87歳。

フーヴァーは親日的だった

他方、もしフーヴァーがたとえ

フーヴァーは親日的だった

味でフーヴァーは日本にとって恩人の一人であったと言えます。